

地域づくり表彰

さかもと元気ネットワーク（徳島県勝浦町）

自分たちの力で「坂本」をもっと 元気に！

さかもと元気
ネットワーク

会長

うちに のぶき
内谷 信喜



1. 地域の概要

【勝浦町の概要】

勝浦町は四国の東部、勝浦川の中流域に位置する盆地状の中山間地域です。緑なす四方の山々、山裾に開けたみかん畑、平野部に広がる田園風景、そして、まちの中央を流れる清流勝浦川など自然豊かなまちです。

1988年から続く「阿波勝浦《元祖》ビッグひな祭り」が有名で、千葉県勝浦市をはじめ、全国各地に広がっています。



阿波勝浦《元祖》ビッグひな祭り

【坂本地区の概要】

坂本地区は、勝浦町で最も山間部に位置し、集落は海拔100mから400mにかけての急こう配な地形です。

人口400人弱、高齢化率60%超で、過疎化と高齢化が進んでおり、何をすることも実働人員が限られますが、昔から、住民のまとまりがあり、優しい人の多い土地柄です。

勝浦町の主要産業である「みかん」は、江戸時代後期に坂本地区で栽培が始まり、次第に町内、県内へと広がりました。

2. 団体の概要

「さかもと元気ネットワーク」は、「自分たちの力で坂本をもっと元気にしよう！」と活動する住民有志の団体です。

地区の「急な坂道」を地域資源と捉えた「さかもと坂道マラソン」や、日本の伝統文化に親しみながら地域

を盛り上げるイベント「さかもと着物祭り」を開催しています。

3. 活動開始の背景・経緯

では、どうして、このような活動を行うようになったのでしょうか。

事の始まりは、1999年、地元・坂本小学校の「廃校」という大きなピンチからでした。

2002年から地元有志が、廃校をリノベーションした農村体験宿泊施設「ふれあいの里さかもと」の運営を担い、地域の沈んだ空気を払拭させていきました。



ふれあいの里さかもと

それにより、住民主体の地域づくり活動が活発化し、「阿波勝浦ビッグひな祭り」と連動したひな祭りイベント「さかもとおひな巡り」や秋祭りに行灯800基を灯す「あかりの里」といった取組みがスタートしました。

そして、2016年、住民参加のワークショップで「坂本地区の目指すべきまちづくり」について検討したのを契機に、「さかもと元気ネットワーク」が発足しました。

4. 活動の内容

【さかもと坂道マラソン】

「さかもと坂道マラソン」は、地名のとおり、急な坂道ばかりのハンディを逆手にとったもので、最大高低差224mの「激坂」を上り下りし、集落を1周するコースが売りです。

11月、特産のみかんが色づくなか

を、毎回、集落人口並みのランナーが駆け抜けます。



さかもと坂道マラソン

開催にあたっては、急坂ゆえの安全管理、山間部ゆえの駐車場不足、過疎地ゆえのスタッフ不足などの課題があります。しかし、そこは、地域外からも含め、集落人口並みの延べ人数のボランティアが、コース清掃等の準備作業や大会運営を担うなど、「地域総掛かり」での大会となっています。

また、参加賞や入賞賞品に美味しい「みかん」を用い、特産品のPRにも一役買っています。



子どもも参加してコース清掃

【さかもと着物祭り】

「さかもと着物祭り」は、家庭に眠っている「古い着物」に再び活躍の場を与え、ひな祭りイベント「さかもとおひな巡り」をもっと盛り上げようと考え始めました。

着物を着て人力車に乗り、桃や梅の花を見ながら、ウグイスのさえずりも聞きながら、坂本の人の温かさに触れ、ひな祭りを楽しむことによ

り、「地域の良さ」を体感いただいています。



さかもと着物祭り

開催前には、着物は集まるだろうか、こんな山里で着物散策は成り立つのだろうか、着物の保管はどうしよう、といった心配がありました。

ところが、ふたを開けてみれば、思いのほか沢山の着物が集まり、突如「坂本チンドン隊」が現れて盛り上げるなど、大いに楽しく満足していただける催しとなりました。

若い人が着物を着て楽しんでいる写真を見て、提供してくれたお年寄りが涙を流しながら喜んでくれたときは、私たちも感激！でした。



突如現れた「坂本チンドン隊」

5. 創意工夫

【資金面での持続化】

活動を継続するうえで、「資金面での持続化」は重要なことなので、行政からの補助金に頼らず、参加費やグッズ（大会Tシャツ）売上げ等で賄えるよう努めています。

また、マラソンのタイム計測は、通常は専門の業者をお願いするのですが、自前のできるよう工夫し、約40万円の経費削減を実現しました。

【コロナ禍を乗り越えて】

2017年の事業開始から間もなく、「コロナ禍」に見舞われ、3年間に渡る休止を余儀なくされました。

コロナ禍がいつまで続くかわからない不安なか、特に、多くのスタッフを必要とするマラソンでは、ス

タッフや関係者の関心とモチベーションを持続させる必要がありました。

そこで、休止2年目に、地元住民でも普段は通して歩くことのないマラソンコースを歩く関係者向けのウォーキングイベントを開催しました。

また、休止3年目には、感染リスクを避けた少人数でのイベントとして、神社の急こう配な石段（約300段）を駆け上がる競争「さかもと福段かけあがり」を実施しました。これは、兵庫県西宮えびす神社の「福男選び」をヒントにしたものです。

こうしたお陰で、3年間の休止期間後にも円滑に実施することができました。



さかもと福段かけあがり

【若者の力を引き出す】

地域を元気にさせるには、何といっても「若者」の力が欠かせません。

そこで、二つの事業は、若者中心のプロジェクトチームで企画・運営を行い、年配者は支援に回るかたちで進めています。

移住者も、Tシャツ等のデザインや動画制作などを担ってくれています。

これにより、若者の地域活動への関心が高まり、地域の活力源になってくれています。



さかもと着物祭りの若手スタッフ

6. 成果

マラソンには、毎回、集落人口並みの参加があり、リピート率も約40%と高い状況です。着物祭りも満員御礼の人気イベントとなり、人力

車2台がフル稼働しています。

参加者からは、「走って楽しい坂道マラソン」、「みかんの町一色の爽やかなマラソン大会」、「京都の町歩きとは違った良さを演出できている」、「着物の良さに気づき、坂本の人たちの温かい心に触れ大満足」といった嬉しい感想が寄せられています。

また、地域住民からは、「坂本に嫁いできて良かった」という若いお嫁さんや、「移住先を決める材料になった」というIターン者の声もあります。

地域外からも、「坂本が徳島みかんの故郷であることを知った」、「私たちの地域でも何かできるのではと考えさせられた」との声を聞きます。

このように、二つの事業を通じて、「みかんの里」としてのイメージアップや関係人口の増加、若い人のIターンにつながるとともに、地域コミュニティの強化や住民の自信につながっていることは、今後の更なる過疎化や大規模災害への備えとして、大変心強く感じています。

7. 更なる波及

こうした動きを受け、坂本地区では、更なる活動が生まれています。

地元の山をある方角から見れば「ひな人形」のように見えることから「おひな山(さん)」の愛称をつけ、モニュメントを設置するなどPRする活動。神社の手水鉢に四季折々の花を浮かべる「花手水」。かつて沢山あった「水車」を復活させ、環境学習や観光に活用しようとする活動などです。



おひな山（稼勢山（かせやま））

集落の過疎化・高齢化の進行を止めるのは難しいことですが、「心の過疎」が進行しないよう、皆で力を合わせ、「坂本に住んで良かった」と思える「元気でステキな田舎」づくりのため、今後も活動していきます。